

〔研究資料〕

## 中国における学校健康教育の歴史の変遷

趙 月 輝 \*  
齊 藤 一 彦 \*\*  
山 平 芳 美 \*\*\*  
藤 島 廉 \*\*\*\*

### Historical Changes of School Health Education in China

Yuehui ZHAO

(Graduate School of Education, Hiroshima University)

Kazuhiko SAITO

(Hiroshima University)

Yoshimi YAMAHIRA

(Hiroshima City University)

Ren FUJISHIMA

(Graduate School of Humanities and Social Sciences, Hiroshima University)

#### Abstract

In China, health education has been emphasized for a long time. In this context, school health education has become the core of health education. To clarify how school health education in China has been established and from what research perspective the status of school health education in China should be examined, it is essential to examine the actual situation and trends regarding school health education in China. In this study, we summarized school health education in China, clarified the characteristics and development of school health education in China, and identified issues that need to be studied and areas that are expected to develop in the future. In this study, literature, laws and regulations, and books in the field of school health education and school hygiene education in China were searched on CNKI, a Chinese article search site. The selected 25 articles were used to organize the contents of the characteristics and development of school health education in China. As a result, since the beginning of the 20th century, school health education in China has developed through four stages: the dawn stage, the development stage, the decline stage, and the revival stage, while mixing hygiene education and health education, and finally arrived at the current “Physical Education and Health,” which is a fusion of school health education and school physical education. In the future, it is necessary to accumulate research on the principles of school health education, theories of school health education methods, and theories related to school health education.

---

\* 広島大学大学院教育学研究科, \*\* 広島大学

\*\*\* 広島市立大学, \*\*\*\* 広島大学大学院人間社会科学研究科

## I. 緒言

1948年に設置された世界保健機関（World Health Organization, 以下、「WHO」）は、「健康とは身体的、精神的及び社会的に安全に安寧である状態であって、単に病気でないとか、病弱でないとかいうに止まるものではない」（野村, 2012, p.2）との考え方を提示した。また、学校教育に対して、WHO（1997）は「全ての学校であらゆる段階の子供たちに非常に重要な健康とライフスキルを教えなければならない」（p.12）と提言した。その後、世界各地でこの考え方に基づく諸政策が具現化されつつあり、例えば、1991年に「中華人民共和国未成年保護法」（中華人民共和国第7回全国人民代表大会常務委員会, 1991）が公布され、学校は、未成年児童・生徒の心身の発達の特性に於て、社会生活指導、精神保健相談、思春期教育、生命教育を行うべきであるという考えが示された。さらに、この規定は、2006年、2012年及び2020年の3回の改正を経て、現在もなお残っている（中華人民共和国第10回全国人民代表大会常務委員会, 2006；中華人民共和国第11回全国人民代表大会常務委員会, 2012；中華人民共和国第13回全国人民代表大会常務委員会, 2020）。これらの法律の充実に踏まえ、中国では、元国家教育委員会と中華人民共和国衛生部（1992）によって、小学校・中学校・高等学校健康教育基本要請が発表された。さらに、小学校から高等学校において、学校健康教育が必修の内容として「体育と健康」課程標準に導入された（趙, 2019）。また、近年、児童・生徒は健康教育を重点的に学ぶことが求められ、学校健康教育は健康教育の核となっている（範・黄, 2014）。以上のように、「中華人民共和国未成年保護法」（中華人民共和国第7回全国人民代表大会常務委員会, 1991）及び範・黄（2014）や趙（2019）の先行研究を踏まえると、中国において、学校健康教育は重視されているといえよう。

中国では、衛生教育と健康教育、学校衛生教育と学校健康教育とこれまで様々な類似の用語が活

用されてきた。ここでは中国における衛生教育と健康教育について整理する。端（1933）は、衛生教育を、①公衆衛生従事者の育成、②民衆の衛生指導、③学校衛生教育、の3つの領域に大別した。時代の変遷により、近年では、衛生教育が徐々に健康教育に変化し、歴史を遡る論文にしか使われなくなった。一方、周（1937）は、健康教育を、①公衆健康教育、②健康教育の管理者の育成、③学校健康教育の3つの領域に大別した。このように、中国において、衛生教育と健康教育は、現在も混在したままであるといえよう。健康知識の普及、健康活動の促進、疾病の予防など、本質的には同じであると考えられることができるが、中国の民国時代前後では衛生教育が多用されていた。その後、健康教育が中国国内において学校健康教育として徐々に受け入れられ、普及していったとされる（範・黄, 2014）。

また、中国における学校衛生教育と学校健康教育について整理する。学校衛生教育は衛生教育の一部の内容として位置付けられ、学校における衛生管理や児童・生徒への衛生指導とされる（端, 1993）。一方、中国の権威ある研究機関が発行している「教育教学研究」に掲載された李・周（2012）によると、中国における学校健康教育とは教室での授業や健康教育活動を通じて、児童・生徒に一般的な病気の予防や治療、健康管理に関する知識を身につけさせ、生徒のセルフケア意識を高め、科学的・文化的・健康的な生活習慣や行動習慣を身につけさせることであると整理している。これより、学校健康教育は学校における児童・生徒を対象とした健康教育であるといえよう。

中国における衛生教育と健康教育、学校衛生教育と学校健康教育の整理を踏まえ、本質的にこれらは同じと考えられるため、本論文では、衛生教育も含めて「健康教育」、学校衛生教育も含めて「学校健康教育」と統一して取り扱う。

ところで、中国において、学校健康教育が重視されている今日、学校健康教育がいつ頃から形成され発展していったのか、あるいは定着していったのか、中国における学校健康教育の歴史の変遷

についてまとめられた先行研究は3編と限定的である(安・鄭, 2008; 範・黄, 2014; 張ほか, 2009)。具体的に, 範・黄(2014)は「中国における健康教育のトレーサビリティ」で中国における学校健康教育の歴史的脈絡を示し, 学校体育の指導に学校健康教育の指導が導入された経緯, 「体育」教科から「体育と健康」教科への変遷, 学校体育に学校健康教育が導入された「体育と健康」の経緯という3つの視点から学校健康教育の歴史の変遷を整理した。安・鄭(2008)は「中国における健康教育・健康増進の現状と開発方針」で中国における健康教育及び健康増進の開発の歴史を踏まえ, 健康教育及び健康増進の開発方針を示した。さらに, 健康増進に関する法律や規定が具体化されていないという課題, 健康教育の評価基準が整備されていない課題, 専門機関の設立に関する課題を提示した上で, 今後の対策について述べた。張ほか(2009)は「改革開放30年の中国における学校衛生・健康教育の発展の成果」で中国が成立した後の健康教育に関する政策の発展や成果をまとめた。また, 中国の学校健康教育の発展に貢献した主要な研究者である張国棟の実績について紹介した。しかし, 中国における学校健康教育の発展の過程を明確に分類しながら歴史の変遷についてまとめた研究, さらに, 中国における学校健康教育の特徴に関する先行研究は管見の限りみられなかった。

中国において, 学校健康教育はどのような歴史の変遷を辿ってきたのか, さらに, 今後どのような視点に立って中国における学校健康教育を研究していけばよいのか未解明である。それらを明らかにするためには, 中国における学校健康教育に関する動向について研究を蓄積していくことが不可欠であろう。

そこで, 本研究では中国における学校健康教育の特徴や発展の過程を明らかにし, 今後研究すべき課題及び発展が期待される領域を導出することを目的とした。

## II. 方法

研究の方法としては, 中国の論文検索サイトである China National Knowledge Infrastructure (以下, 「CNKI」)で「健康教育 AND 歴史」, 「衛生教育 AND 歴史」をキーワードとして検索を行った(2021年4月9日現在)。なお, CNKIには「法律デジタル図書館」が存在し, 法律や法令についても検索することが可能である。本研究で対象とする文献及び各法令については, 次の①～③の基準にしたがって選定した。

- ① 中国における学校健康教育の代表的な学会誌である「中国健康教育」, 「中国学校衛生」に掲載された学校健康教育歴史の変遷に関する論文であること。
- ② 中国における学校健康教育の歴史に関する論文や書籍で, 他の論文や書籍で多数引用されていること。
- ③ 中国における国家機関が公布した, 学校健康教育に関する法令であること。

本研究で対象となった文献及び各法令や書籍などを選定した結果, CNKIで273編が得られた。①の基準を満たした論文が3編, ②の基準を満たした論文が8編, ③の基準を満たした各法令が14編, ①～③の計25編が選定された。①～③の選定は, 第1著者が独立して行い, その後第2著者と第3著者の計3名による検討を重ね, 第1著者・第2著者・第3著者の意見の一致により決定した。最終的に選定した25編の文献及び各法令や書籍を表1として作成した。さらに, ②に対して, CNKIにて引用された回数の対応表を表2で示した。

そして, ①～③で対象となった文献及び各法令や書籍の25編を用い, 中国における学校健康教育の特徴や発展に関する内容の整理を行った。

表1 中国における学校健康教育に関する文献及び各法令や書籍

選定基準	日本語に翻訳した題目 (法令名)	著者 (発行年)	概要
①	20世紀前半における学校衛生を題して執筆した著書略述	張丹紅・張蘇萌 (2005)	20世紀前半における中国の学校衛生に関する図書の要約がまとめられた論文である。
	民国時代における我が国の健康教育の普及モデル研究	胡鳳・常松 (2011)	民国の健康教育について歴史的に整理された論文である。
	改革開放30年の中国における学校衛生・健康教育の発展の成果	張芯・馬軍・余小鳴 (2009)	改革開放の30年間を対象に学校教育における衛生教育や健康教育について歴史的にまとめられた論文である。
②	中国における健康教育のトレーサビリティー	範才清・黄超文 (2014)	中国における健康教育の歴史を整理する論文である。
	健康教育の概念及び特徴	祖光懷 (1983)	中国における健康教育の概念整理に関する論文である。
	中国における健康教育・健康増進の現状と開発方針	安力彬・鄭昊 (2008)	中国の健康教育に関する現状や開発の方針についてまとめられた論文である。
	清末・中華民国時代の身体検査制度とその実践に関する研究 (1902年から1949年)	王瑤華 (2020)	清の時代から中華民国の時代における健康教育の歴史に関する論文である。
	明代の健康教育文集	王東勝・黄明豪 (2008)	明の時代における健康教育の内容に関連する書籍である。
	公衆衛生概論	胡鴻基 (1933)	中国における衛生教育及び歴史についてまとめられた書籍である。
	中国の小中学校の性教育政策の見直し (1984年～2016年)について	劉文利・元英 (2017)	中国の健康教育でもとりわけ性教育政策に関する論文である。
	学校体育科教育課程改革の歴史的検討と反省	鄭華偉 (2007)	中国の「体育と健康」課程標準の改革に関する論文である。
③	中華人民共和国未成年者保護法 (1991)	中華人民共和国第7回全国人民代表大会常務委員会 (1991)	中国の未成年者を対象として身体的・精神的健康を保護するために、憲法に基づいて制定された法令である。
	中華人民共和国未成年者保護法 (2006)	中華人民共和国第10回全国人民代表大会常務委員会 (2006)	中国の未成年者を対象として身体的・精神的健康を保護するために、憲法に基づいて制定された法令で、2006年改訂版である。
	中華人民共和国未成年者保護法 (2012)	中華人民共和国第11回全国人民代表大会常務委員会 (2012)	中国の未成年者を対象として身体的・精神的健康を保護するために、憲法に基づいて制定された法令で、2012年改訂版である。
	中華人民共和国未成年者保護法 (2020)	中華人民共和国第13回全国人民代表大会常務委員会 (2020)	中国の未成年者を対象として身体的・精神的健康を保護するために、憲法に基づいて制定された法令で、2020年の最新版である。
	中等教育における思春期教育の実施に関する通達	中華人民共和国国家教育委員会 (1988)	中等教育段階の生徒を対象とした思春期教育に関する法令である。
	中国共産党中央委員会「初等中等教育における徳育の改革と強化に関する通達」	中国共産党中央委員会 (1988)	中国の初等・中等教育段階における道徳を重視した学校教育に関する法令である。

選定基準	日本語に翻訳した題目 (法令名)	著者 (発行年)	概要
	中華人民共和国におけるエイズ予防・管理のための中間計画 1990年～1992年	中華人民共和国国務院 (1990)	中国におけるエイズ予防の計画に関する法令である。
	人口・家族計画業務を総合的に強化し、人口問題を総合的に解決することに関する中国共産党国務院決定	中国共産党中央委員会 (2006)	中国における人口・家族計画業務に関する法令である。
	中国児童発展計画 2011年～2015年	中華人民共和国国務院 (2011a)	2011年から2015年までを対象とした、中国における児童の心身の発育発達に関する法令である。
	中国児童発展国家計画大綱 2011年～2020年	中華人民共和国国務院 (2011b)	2011年から2020年までを対象とした、中国における児童の心身発育発達に関する法令である。
③	健康中国 2030年計画	中華人民共和国国務院 (2016)	2030年を達成年とした「健康中国」の計画に関する法令である。
	学校衛生工作条例	中華人民共和国国家教育委員会・中華人民共和国衛生部 (1990)	中国における学校衛生の作業の規則に関する法令である。
	小学校・中学校・高等学校における健康教育の指導綱要	中華人民共和国教育部 (2008a)	中国における小学校から高等学校を対象とした学校健康教育の内容を示す国家の法令である。
	教育部義務教育における実験的カリキュラムの発行に関する通達	中華人民共和国教育部 (2001a)	中国における義務教育9年間のカリキュラムに関する国家の法令である。

表2 CNKI 検索において多くの引用があった文献と引用回数

引用回数	日本語に翻訳した文献及び書籍名
798回	中国における学校健康教育のトレーサビリティ
770回	健康教育の概念及び特徴
93,113回	中国における健康教育・健康増進の現状と開発方針
78回	清末・中華民国時代の身体検査制度とその実践に関する研究 (1902年から1949年)
293回	明代の健康教育文集
220,521回	公衆衛生概論
387回	中国の小中学校の性教育政策の見直し (1984年～2016年) について
1,403回	学校体育科教育課程改革の歴史的検討と反省

### Ⅲ. 結果・考察

#### 3.1 中国における学校健康教育の歴史の変遷

中国における学校健康教育の発展はその特徴に応じて、以下の4つの時期に分けられた。

##### 3.1.1 学校健康教育の黎明期(1902年から1928年)

清時代<sup>注1)</sup>の末期、「洋務運動」に影響され、中国では20世紀に入ってから学校健康教育が始まるようになった(張・張, 2005)。この時期では、健康教育は基本的に学校が中心となっており、児童・生徒を対象とし、主に、校医が担当及び教育を実施する状態であった(範・黄, 2014)。1902年、清時代の政府は「欽定学堂章程」を公布し、学校健康教育に初期的な要件が定められた(葉, 2010)。例えば、食堂・浴場・療養室の設置、生徒の身体状況に応じた椅子・机の用意である。このような要件が施策として示された背景には、当時の学校健康教育の中で教育環境の整備が狙いとされていた。続いて1904年に、清時代の政府は「奏定学堂章程」を公布した。そして、日本の学校制度をモデルにして、清時代の政府が発育発達と衛生の内容をカリキュラムに組み込み、学校教育に健康教育の内容を導入し始めた(王・黄, 2008)。「奏定学堂章程」の公布により、近代教育の幕開けとなった(範・黄, 2014)。

1927年、南京国民政府が成立し、国の復興の一環として、健康教育が重視されることとなった(王, 2020)。しかし、1911年の辛亥革命から1928年の中華民国時代の南京国民政府による統一までの間、内戦による混乱は学校健康教育に大きな影響を与えたため、学校健康教育の発展が難しい時期であった(王, 2020)。上述した清時代に学校健康教育の内容を導入し始めたことからこの時期は黎明期といえよう。

##### 3.1.2 学校健康教育の発達期(1928年から1937年)

1928年10月30日、南京国民政府令国家衛生部が設立され、全国的に衛生活動がはじまった(胡・常, 2011)。一方、当時、国民には健康教育

とはどのような教育か認知されておらず、政府は健康教育を普及させるため、衛生告示、プラカード、衛生講演などの方法で健康教育を周知した(胡・常, 2011)。また、当時の学者たちは、公衆衛生や健康教育を、学校外における児童・生徒の日常生活の中で教えるべきだと提唱した(胡・常, 2011)。そのような中1932年、王庚の「健康教育実施法」が発刊された。「健康教育実施法」には、健康教育を実施する際の要点が詳しく解説されており、健康教育の普及と実施の土台となった(胡・常, 2011)。

さらに、中華民国の時代<sup>注2)</sup>では各地の学校教育機関において、健康教育に関する事業が立ち上げられ、委員会も相次いで設立された。1929年、北平市(現在の北京市)が学校衛生委員会を設立し、1931年、南京市が健康教育委員会を設立した(範・黄, 2014)。次に、1933年、北平市は小学校・中学校・高等学校健康教育委員会を設立し、学校健康教育を体系的に実施した(張ほか, 2009)。1934年、当時の国家教育部は小学校・中学校・高等学校衛生委員会を設立し、衛生委員会が小学校・中学校・高等学校における健康教育実施法案を制定した。続く1935年に、「中国衛生教育社」、1936年に、「中華健康教育学会」と全国的な学会が創立された(範・黄, 2014)。前述した学校健康教育に関する学会が相次いで創立されたことから、学校健康教育の発達期といえよう。

##### 3.1.3 学校健康教育の衰退期(1937年から1985年)

中華民国の時代から進められた学校健康教育の発達期は短く、1937年から中華民国は第二次世界大戦に巻き込まれた。学校健康教育のみならず、学校教育の全てが衰退期となった(範・黄, 2014)。1945年、第二次世界大戦終戦直後、内戦に入り、1949年、中華人民共和国が成立するまでの間、学校教育は沈滞していた(張ほか, 2009)。この時期、学校健康教育は衰退の一途をたどった。

そして、1949年10月1日に中華人民共和国が成立した。1950年に毛沢東(初代中国主席)は

健康第一の教育方針を提示した（範・黄，2014）。しかし，中華人民共和国建国初期には，政治運動が頻発した。例えば，1947年から1952年までの「土地改革運動」，1951年の反革命運動「三反五反」，1957年から1958年までの「反右派闘争」，1958年から1960年までの「大躍進運動」，1963年から1966年までの「四清運動」，1966年から1976年までの「文化大革命」などがある。これらの運動の中には，最終的に民主主義革命を完成させ，人民を解放するという歴史的な課題を達成するために必要なものもあったが，当時の現状から切り離され，損失をもたらしたものもあった。特に，「四清運動」において，少なくとも7.7万人が死亡し，500万人以上迫害されたと報告されている（楊，2017）。さらに，「文化大革命」は学生の学業を中断させ，教員や研究者は農村や工場に働くことが強要され，軍隊への入隊が強いられた。「文化大革命」の広範で壊滅的な影響の大きさから「破滅の10年」と呼ばれていた期間であった。文化大革命の中で，教員や研究者たちは研究及び教育をする機会が奪われ，児童・生徒や学生は教育を受ける機会にも恵まれない状況となったため，学校健康教育も同時に衰退した時期と推察される。上述した教員や研究者たちは研究及び教育をする機会が奪われたことから，この時期は学校健康教育の衰退期といえよう。

### 3.1.4 学校健康教育の復興期（1985年以降）

1985年には中国教育部が中心となり，国家体育委員会，中華人民共和国衛生部，国家民族委員会，国家科学技術委員会，中華人民共和国財政部が共同で全国学生体力研究プロジェクトを組織化し，中華人民共和国建国以来初の全国・多民族学生健康調査を実施した（張ほか，2009）。この調査は，中国全国の小学生・中学生・高校生・大学生を対象に体型，発達状態，体力，健康状態の4項目と24の指標からなる調査で，初めて全国の児童・生徒・学生の身体や健康に関する基礎データを得るものであった。中国における教育，スポーツ，健康，ナショナルリズム，発育発達，医学，優

生学，人類学の研究のために，健康教育の実態に関する代表的なデータとなった（張ほか，2009）。

全国・多民族学生健康調査以降，中国政府は学校健康教育を重視してきた（劉・元，2017）。1988年8月，中華人民共和国国家教育委員会（1988）は「中等教育における思春期教育の実施に関する通達」を発表し，中等教育段階における思春期教育の実施要編を規定した。この思春期教育には，学校健康教育に該当する内容の一部が含まれている。続いて，中国共産党中央委員会（1988）は「初等中等教育における徳育の改革強化に関する通達」を発表し，初等・中等教育段階は児童・生徒の身体的成熟度が徐々に高まる時期であること，思春期教育は心身の健康教育と組み合わせて適時に実施すべきであることを強調した。「中等教育における思春期教育の実施に関する通達」と「初等中等教育における徳育の改革強化に関する通達」の機関は異なるものの，両者ともに教育に関する通達を取り扱うこととなっている。その後，中国共産党中央委員会国務院（1990，2011）と中華人民共和国国務院（2011a）は，「中華人民共和国エイズ予防・管理中期計画1990年～1992年」，「人口・家族計画業務を総合的に強化し，人口問題を総合的に解決することに関する中国共産党国務院決定」，「中国児童発展計画2011年～2015年」を公布した。また，「中国児童発展国家計画大綱2011年～2020年」や「健康中国2030年計画」など，一連の重要な政策を採択していった（中華人民共和国国務院，2011b；劉・元，2017；中華人民共和国国務院，2016）。特に，「中国児童発展計画2011年～2020年」では，健康教育を義務教育のカリキュラムに組み込むことと明記されており，初等・中等教育における健康教育の実施に制度的な保障が示された（中華人民共和国国務院，2011b）。

さらに，中国教育部・教育委員会は，学校健康教育に関する多くの政策を打ち出した。1990年6月，中華人民共和国国家教育委員会・中華人民共和国衛生部（1990）は「学校衛生業務に関する規則」を發布し，学校は児童・生徒の良好な衛生

習慣の育成を行い、衛生的な環境と教育や学習の衛生状態を改善し、児童・生徒の感染症や一般的な病気の予防と治療を強化する必要があることを明記した。さらに、教育部は2008年12月に「小学校・中学校・高等学校における健康教育の指導綱要」（以下、「指導綱要」）を公布した。「指導綱要」では、「健康的な行動・生活習慣」、「疾病予防」、「心の健康」、「成長・発達・思春期の健康」、「安全・緊急・危険回避」の5つの分野について、それぞれ健康教育に関連する内容が盛り込まれた（中華人民共和国教育部，2008a；趙，2019；趙ほか，2020）。教育部をはじめとする政府の各省庁は、前述した基準や規則を公布し、学校健康教育の内容を具現化することで、学校健康教育を重視していった。学校健康教育を重視する動きや多くの政策が打ち出されたことから、この時期は学校健康教育の復興期といえよう。

### 3.2 学校健康教育と学校体育の融合

1996年、「中国共産党中央委員会国務院の教育改革、「素質教育」の推進を全面的に行う決定」が公布された（中華人民共和国教育部，1999）。項（2006）は、「素質教育」について、「国の教育方針を全面的に貫徹し、国民素質の向上を根本的な趣旨とし、児童・生徒の創造精神と実践能力の育成に力点を置き、『理想あり、道徳あり、規律あり』の徳育、知育、体育の全ての面で発達する社会主義事業の建設者と後継者を育成する教育」（p.43）と述べている。「素質教育」では、学校教育において、健康第一という指導の思想に基づいて、体育科教育を効果的に強化すべきであることが明示された（中華人民共和国教育部，1999；鄭，2007）。「素質教育」の推進は、中国の基礎教育カリキュラム改革の前提条件だといえよう（中華人民共和国教育部，1999）。しかし、学校健康教育は基礎教育課程の枠組みの中で独立した教科とさ

表3 中学校における課程標準の学習内容及び目的

	内容	目標
運動への参与	体育学習と鍛錬への参与	基礎的な運動習慣を形成する
	運動の楽しさと成功体験	基礎的な体育において積極的な態度を形成する
運動の技能	体育知識の学習	体育の試合における結果と課題と問題を分析する 体育学習とトレーニングの能力を高める
	運動の技能と方法の把握	運動の技能を身につけ実践する
	安全意識の向上と防止の能力	安全に運動の能力を高める 安全に関する知識を日常生活に適用する
身体の健康	基礎的な保健知識と方法の把握	生活の仕方と健康の関係を理解する 基礎的な衛生及び病気の予防の知識と方法を把握する 基本的な青春期の保健知識を把握する
	体力とトレーニング能力の全面的な発達	運動項目の練習において感度、速度、力、心肺能力、トレーニング能力を高める
	強靱な意志の育成	断固とした決断力を持つ
メンタルヘルスと社会への順応	感情コントロールの方法と習得	挫折及び失敗に対して積極的に対応し、安定した気持ちを持つ
	協力意識の醸成	集団としての榮譽感を確立する
	良好なスポーツ道徳心の育成	良好なスポーツ道徳心を形成し、日常生活に反映させる

出典：趙ほか（2020）

れておらず、当時の中国における教育制度や社会的な背景を踏まえ、従来の「体育」課程に学校健康教育の内容が加えられた（中華人民共和国教育部，2001a）。2001年、教育部では、基礎教育課程の中で「体育と健康」を重要な課程とし、「体育と健康」課程標準<sup>注3)</sup>を公布した（中華人民共和国教育部，2001b）。従来の「体育」課程には主に運動実技及び運動理論で構成されていたが、「体育と健康」課程標準では、人間中心・健康第一の教育理念を定め、「運動への参与」、「運動の技能」、「身体の健康」、「メンタルヘルスと社会への順応」の4つで構成され、その具体的な内容と目標が明示された（中華人民共和国教育部，2008b）。「体育と健康」課程標準の具体的な学習内容や目標を、中学校を例として表3にまとめた。とりわけ、表3の身体の健康やメンタルヘルスと社会への順応から、学校健康教育が加えられたことが理解できる。なお、「体育と健康」課程標準は学校の教科「体育と健康」の内容が決められている。そして、「指導綱要」は学校健康教育すべての内容が規定されている。つまり、「体育と健康」課程標準は、「指導綱要」が規定した学習内容に従わなければならない（中華人民共和国教育部，2008b）。以上を踏まえると、「体育と健康」課程標準と「指導綱要」の発布は、学校健康教育と学校体育の融合を示したといえよう。このように「体育と健康」教科に位置付けられた学校健康教育は中国における学校健康教育の特徴だと考えられる。

### 3.3 学校健康教育の歴史の変遷を踏まえた研究課題の検討

中華人民共和国国家教育委員会・中華人民共和国衛生部（1990）が発布した「学校衛生業務に関する規則」では、学校に健康教育の授業に取り入れることを求め、学校教育における学校健康教育の位置づけを明確にした。また、2008年、教育部が公布した「指導要綱」では、学校健康教育を5つの分野に分けて、その内容も詳しく規定された。しかし、王ほか（2020）は学校健康教育の内

容が拡充されているにもかかわらず、学校健康教育の実施が不十分であることを指摘した。

その原因及び学術的な研究課題として、以下の3点に着目したい。

まず、学校健康教育の歴史の変遷から、学校健康教育の内容が拡充されていることは明らかになった。しかし、王ほか（2020）の指摘の通り、「体育と健康」課程の担当教員は学校健康教育に対する基本的な理解ができておらず、「体育と健康」課程の担当教員は学校における児童・生徒・学生に対する健康教育と知識教育の関係性を明確にできていなかった。なお、「体育と健康」課程の担当教員は児童・生徒・学生の健康教育を行うことが知識教育につながると捉え、健康教育を行うことが重要だという理解が不可欠だと考えられる。前述の通り、「健康教育」と「衛生教育」という2つの用語が長い間混在して発展してきた（範・黄，2014）。したがって、学校健康教育に対する基本的な概念を明確にすることが必要であろう。

そして、学校健康教育の歴史の変遷を踏まえ、「体育と健康」課程は従来の「体育」課程と学校健康教育が単純に統合されたものではないと考えられる。一方、王（2001）は学校のカリキュラム全体における学校健康教育の位置づけは明確にされておらず、指導内容についても新たな規定が設けられなかったと指摘した。したがって、「指導綱要」や「体育と健康」課程標準においては学校健康教育の目標や内容が定められているものの、現在、具体的な学校健康教育カリキュラムや学校健康教育の教授技術及び学校健康教育の評価システムが不十分であるといえる。さらに、学校健康教育カリキュラム、学校健康教育の教授技術及び学校健康教育の評価などの学校健康教育の授業方法に関する領域における研究の蓄積は喫緊の課題であろう。

最後に、「指導要綱」の5つの分野の内容より、学校健康教育は様々な研究領域との関わりがあるが、教育内容をどこまで展開するのかについては明確に示されなかった。また、表3の「体育と健康」課程標準の内容より、学校健康教育は社会学、

医学、心理学などの関連がみられた（中華人民共和国教育部，2008b；趙ほか，2020）。さらに、王（2001）は、学校健康教育は健康行動、安全教育、体育と健康教育、健康心理学、性教育などの領域との関わりがみられることを報告した。このように学校健康教育と科学的な領域は隣接している（王，2001）。しかし、学校健康教育は隣接諸領域との相互関係において不明瞭なところが多く、これらのことを明確にするため、学校健康教育と隣接する領域の関係性を構築することが必要であろう。

#### IV. おわりに

本研究では学校健康教育の特徴や発展の過程を明らかにし、今後研究すべき課題や発展が期待される領域を導出することを目的とした。

中国における学校健康教育は20世紀に入ってから、清時代の末期に登場した黎明期、中華民国の時代から発展した発達期、戦争や政治運動に影響された衰退期、中国政府に重視された復興期の4つの段階を経ていた。その間、衛生教育と健康教育は同時に発展し、そして、現在の学校健康教育と学校体育が融合した「体育と健康」課程に辿り着いたという、歴史的変遷を明らかにすることができた。

また、前述した学校健康教育の概念及び歴史的変遷の整理から、以下の3点の学術領域に関する研究の課題が浮き彫りとなった。

第1に、学校健康教育の原理に関することである。具体的には、学校健康教育に対する基本的な理解及び学校における健康と教育の関係性を整理することが必要である（範・黄，2014；胡・常，2011；王，2001；張ほか，2009）。

第2に、学校健康教育の授業方法に関する領域である。具体的には、学校健康教育カリキュラム、学校健康教育の教授技術及び学校健康教育の評価に関する領域を開発していくことが必要である（胡，1993；林，2012；王，2001；王ほか，2020）。

第3に、学校健康教育と隣接する領域である。具体的には、健康行動、安全教育、体育と健康教

育、健康心理学、性教育などの諸領域との関連である。学校健康教育は幅広い領域との関連があるため、学校健康教育とその周辺領域の関連性を踏まえた研究が必要である（劉・元，2017；王ほか，2005；趙ほか，2020）。

本研究では、学校健康教育の歴史的変遷を整理したが、「体育」課程に学校健康教育が加えられた背景及び「体育」課程から「体育と健康」課程への変更に伴う教員養成との関連性に関する課題までは整理できなかった。これらも今後における重要な研究課題であろう。今後中国において、学校健康教育のさらなる発展に向けて、学問分野の横断的かつ包括的な性質を十分に認識するとともに、教育学と医学、心理学、社会学、行動科学などの多くの隣接する領域との相互関係を考慮する必要がある。

#### <注>

- 1) 清時代は1636年から1912年に滅んだ封建的・帝國的な王朝である。
- 2) 中華民国の時代は1912年中国の清時代終わってから、1949年中華人民共和国が成立するまでの時代である。
- 3) 中華人民共和国教育部（2001a）（日本の文部科学省のような組織）は「基礎教育課程改革要綱（試行）」を公表し、「素質教育」に応じる新しいカリキュラムを構築することを決定した。同じく2001年、中国の体育に関する指導計画の基準であった「義務教育・体育教学大綱」は廃止され、「体育（1から6年）」課程標準、「体育と健康（7から12年）」課程標準新たに制定された（林，2012）。日本の「保健体育科」という教科は中国において、旧名称は「体育」課程であり、現行名称は「体育と健康」課程という。さらに、日本の「保健体育科指導要領」に類似するものは「体育と健康」課程標準という。

#### 文献

安力彬・鄭昊（2008）中国における健康教育・健康増進の現状と開発方針。現代予防医学，35

- (21) : 4203-4209. (中国語)
- 中国共産党中央委員会 (1988) 中国共産党中央委員会「初等中等教育における徳育の改革と強化に関する通達」. 中華人民共和国国務院広報. (中国語)
- 中国共産党中央委員会 (2006) 中華人民共和国国務院. 人口・家族計画業務を総合的に強化し, 人口問題を総合的に解決することに関する中国共産党国務院決定. (中国語)
- 中国衛生教育社 (online) <https://baike.baidu.com/item/中国衛生教育社/23193315?fr=aladdin/>. (参照日 2020年11月20日). (中国語)
- 中華人民共和国国家教育委員会 (1988) 中華人民共和国計画生育委員会. 中等教育における思春期教育の実施に関する通達. (中国語)
- 中華人民共和国国務院 (1990) 中華人民共和国におけるエイズ予防・管理のための中間計画 1990年～1992年. 中華人民共和国国務院広報. (中国語)
- 中華人民共和国国務院 (2011a) 中国児童発展計画 2011年～2015年. 人民教育出版社:北京. (中国語)
- 中華人民共和国国務院 (2011b) 中国児童発展国家計画大綱 2011年～2020年. 人民教育出版社:北京. (中国語)
- 中華人民共和国国務院 (2016) 健康中国 2030年計画. 人民教育出版社:北京. (中国語)
- 中華人民共和国国家教育委員会・中華人民共和国衛生部 (1990) 学校衛生工作条例. (中国語)
- 中華人民共和国第7回全国人民代表大会常務委員会 (1991) 中華人民共和国未成年者保護法. 北京. (中国語)
- 中華人民共和国国家教育委員会・中華人民共和国衛生部 (1992) 小学校・中学生・高等学校健康教育基本要求. 中国健康教育, 9 (7) : 9-12. (中国語)
- 中華人民共和国第10回全国人民代表大会常務委員会 (2006) 中華人民共和国未成年者保護法. 北京. (中国語)
- 中華人民共和国第11回全国人民代表大会常務委員会 (2012) 中華人民共和国未成年者保護法. 北京. (中国語)
- 中華人民共和国第13回全国人民代表大会常務委員会 (2020) 中華人民共和国未成年者保護法. 北京. (中国語)
- 中華人民共和国教育部 (1999) 中国共産党中央委員会国務院の教育改革, 「素質教育」の推進を全面的に行う決定. 北京. (中国語)
- 中華人民共和国教育部 (2001a) 教育部義務教育における実験的カリキュラムの発行に関する通達. (中国語)
- 中華人民共和国教育部 (2001b) 義務教育「体育と健康」課程標準 (2001版). 人民教育出版社:北京. (中国語)
- 中華人民共和国教育部 (2008a) 小学校・中学校・高等学校における健康教育の指導綱要. 人民教育出版社:北京. (中国語)
- 中華人民共和国教育部 (2008b) 義務教育「体育と健康」課程標準 (2008版). 人民教育出版社:北京. (中国語)
- 端納 (1933) 衛生教育理論と実践. 大上海教育, 5 : 99. (中国語)
- 範才清・黄超文 (2014) 中国における健康教育のトレーサビリティ. 教師, 01:7-9. (中国語)
- 胡鴻基 (1933) 公衆衛生概論. 商務印刷館:上海. (中国語)
- 胡鳳・常松 (2011) 民国時代における我が国の健康教育の普及モデル研究. 中国健康教育, 27:3. (中国語)
- 李健美・周偉 (2012) 学校健康教育の現状及び対策に関する研究. 教育教学研究, 55 : 176-177. (中国語)
- 林楠 (2012) 中国の体育教員養成カリキュラムに関する研究: 教職教養に焦点化して. 広島大学大学院教育学研究科博士論文.
- 劉文利・元英 (2017) 中国の小中学校の性教育政策の見直し (1984年～2016年) について. 教育と教学研究, 31 (7) : 44-55. (中国語)
- 汪有齡 (1901) 学校衛生学. 教育世界, pp. 1-40. (中国語)

- 野村良和 (2012) 学校保健ハンドブック. 教員養成系大学保健協議会. 株式会社きょうせい: 東京. p.2.
- WHO (1997) Promoting health through schools(WHO technical report series 870). Report of a WHO expert committee on comprehensive school health education and promotion Geneva.
- 王建平 (2001) 学校健康教育の規律の概念についての一考察:日本の学校保健教育から見た中国の学校健康教育についての考察. 外国教育研究, 28: 32-37. (中国語)
- 王健・馬軍・王翔 (2005) 健康教育. 高等教育出版社: 北京. (中国語)
- 王東勝・黄明豪 (2008) 明代の健康教育文集. 江蘇人民出版社: 南京. (中国語)
- 王瑤華 (2020) 清末・中華民国時代の身体検査制度とその実践に関する研究 (1902年から1949年). 北京科技大学博士論文. (中国語)
- 王飛・趙陽・趙淑華 (2020) 学校健康教育の発展におけるボトルネックと対応策. 教学と管理, 19-21. (中国語)
- 項純 (2006) 「素質教育」を目指す教育評価改革: 政府公文書の検討を通して. 教育目標・評価学会紀要, 16: 43.
- 葉科 (2010) 民国時代における学校衛生に関する研究. 浙江師範大学修士論文. (中国語)
- 陽繼繩 (2017) 天地がひっくり返る中国の文化大革命の歴史. 天地図書: 香港. (中国語)
- 祖光懷 (1983) 健康教育の概念及び特徴. 中国農村衛生事業管理, 3: 39-42. (中国語)
- 周尚 (1937) 学校健康教育への理解. 教育雑誌, 27: 65. (中国語)
- 鄭華偉 (2007) 学校体育科教育課程改革の歴史的検討と反省. 体育科学技術文献通報, 8: 30-49. (中国語)
- 張丹紅・張蘇萌 (2005) 20世紀前半における学校衛生と題して執筆された著書及び論述. 中国学校衛生, 26 (4): 293-297. (中国語)
- 張芯・馬軍・余小鳴 (2009) 改革開放30年の中国における学校衛生・健康教育に関する発展の成果. 中国学校衛生, 30 (5): 385-393. (中国語)
- 趙月輝 (2019) 中国における保健学習の実態に関する研究: 安徽省を事例して. 広島大学大学院教育研究科修士論文.
- 趙月輝・齊藤一彦・山平芳美 (2020) 中国安徽省の中学生における健康知識・意識に関する実態調査. 保健科教育研究, 5: 41-49.